

陳情番号	陳情第8号
件名	带状疱疹ワクチンに関する陳情
受付年月日	令和5年8月14日
回付委員会	厚生委員会
<p>(陳情要旨)</p> <p>带状疱疹は、子どもの頃に感染する水ぼうそうのウイルスが、治癒後も体の感覚神経に潜伏し、大人になって、加齢や疲労によるストレス、基礎疾患やがん及びリウマチなどの治療で使用される免疫抑制剤等により、その人の免疫力が低下することで、ウイルスが再活性化し発症する病気である。日本での疫学調査では、働き盛りの50歳を過ぎた頃から急増し、80歳までに約3人に1人が発症（生涯発症率は約30%と推計）する、ほぼ全ての日本人が発症リスクを持っている疾患である。最近では、50歳以上を対象とした、COVID-19感染と带状疱疹発症の関係性が注目されており、COVID-19感染患者における带状疱疹の発症率は、非感染者よりも15%高く、また、その重症度の高い入院患者における带状疱疹の発症率は、非感染者よりも21%も高くなると報告がされている。このことは、自身の免疫力の低下により带状疱疹の発症リスクが既に高い50歳以上を含む高齢者において、COVID-19感染と带状疱疹発症リスクの増加を関連づける初めての疫学的エビデンスであり、COVID-19感染や带状疱疹のようなワクチンで予防可能な疾患リスクを有する高齢者の健康を守るために、ワクチン接種などの予防対策が重要であることを示している。</p> <p>また、带状疱疹は、皮膚上に現れる水ぶくれを伴う赤い発疹と眠れないほどの激しい痛みを伴う疾患であるが、その合併症や後遺症も問題視されている。特に、ウイルスが神経を大きく傷つけてしまうと、皮膚の症状が治った後も痛みが続くことがあり、3か月以上続く痛みは带状疱疹後神経痛と呼ばれ、带状疱疹を発症した人の約2割の方に、そのような後遺症が残ると言われている。その痛みは、電気が走るような痛み、焼けるような痛みと表現され、日常生活に深刻な影響を及ぼすとされている。</p> <p>加えて、そのような带状疱疹や合併症及び後遺症に係る医療費に関して、薬剤費と治療費を合わせた直接医療費は、年間で1人当たり平均6万2,094円とされている。特に、带状疱疹後神経痛の後遺症が残った場合では、1人当たり平均12万7,079円とも言われており、日本において、年間にかかる直接医療費は毎年260億円にも上るとされている。また、直接医療費のほかにも、带状疱疹による欠勤や、痛みによる労働生産性の低下による国内での損失は毎年約47億円と推計される。</p> <p>このような状況において、日本では2016年に乾燥弱毒生水痘ワクチン（製品名：ビケン）が、50歳以上の方に対する带状疱疹の予防接種として可能となり、さらに、令和2年1月には乾燥組換え带状疱疹ワクチン（製品名：シングリックス）が発売され、発症リスクの高い、より幅広いニーズに対応できる環境が整ってきている。よって、高齢者の健康維持を推進し、負担となる医療費の抑制、労働生産性の向上を図るため、下記について陳情する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 带状疱疹予防ワクチン（シングリックス、ビケン）の任意予防接種費用の助成制度を導入すること。</p> <p style="text-align: right;">(資料掲載略)</p>	
結果	令和5年9月21日 内容を了知する。